

外科手術の模擬体験に漫画執筆、オリジナル商品の企画・販売。小中学生を対象にした職業体験講座の内容が本格化している。大学生の就職内定率の低迷や若者の離職が相次ぐ現状を受け、「職業観」を早期に身につけさせることへの関心が高まっている。小中高校の教育課程にキャリア教育を組み込む文部科学省の方針もあり、リアルな仕事体験の機会は、さらに増えそうだ。

本物の器具で外科手術 プロが指導し漫画制作

「レイアウトや吹きだしの使い方を工夫して」「影のようない線を引きと、もっと表現力が上がるよ」。小学生約20人がプロの漫画家の指導に耳を傾ける。東京都多摩市で今年2月、特定非営利活動法人(NPO)「次世代育成フォーラム・リスタ」(東京・文京)が開催した漫画家の体験講座。漫画家の清水ヨシヒロさん、横井謙二さんを招き、1コマ漫画の制作に取り組んだ。

2人の手ほどきを受けながら、専用の原稿用紙に鉛筆で下書き。苦心しながら最後のペン入れまで行い、オリジナルの漫画を仕上げた。参加した小学5年の女子児童(11)は「自分の漫画を完成できてうれしい。これから漫画を見るときはページ1ページ、丁寧に読みたい」と笑顔。リスタ事務局長の細谷幸裕さん(40)は「学校の勉強だけで教えきれない部分を見てもらえた。今回の経験を生かし、進路選択の幅を広げてほしい」と言う。

手術着を着込んだ子供たちが、目を輝かせた。横浜

仕事体験 リアルに進化

市立大付属病院(同市)は昨年7月、病院内で「外科手術体験セミナー」を開いた。「切開時はほかの臓器を傷つけない」「挿管するときは、早く体内に空気を送るため速やかに」。医師や看護師の臨場感ある指示に従い、42人の小中学生が医療器具を操る。

気管内挿管や切開手術の疑似体験。マネキン人形や鶏の肉を使用した。電気メス、挿管チューブなどは実際の手術などで使われる本物。子供たちは目を輝かせながら「執刀医」を演じた。同病院シミュレーションセンターの鈴木葉子専任看護師は「近年は医師不足も問題になっている。今回の経験で医師や看護師の仕事に少しでも興味を持ってほしい」と話す。

☆ ☆ ☆
児童生徒を何らかの仕事に生きる大人へと導くのは学校教育の重要な役割の一つだ。だが、学校と社会を結ぶ道筋は不透明さを増している。厚生労働省などの調査によると、2007年春に卒業して就職した人のうち3年以内に離職した割合は大卒者で3割、高卒者では4割に上る。職業に関する曖昧なイメージと、就職後の現実とのギャップが早期離職の一因になっているとの指摘は多い。

国や学校も動き始めた。文科省は昨年、キャリア教育を小中学校や高校に本格導入する方針を固め、12年度にもモデル校を選ぶ。先行している学校では社会人の話を聞く。座学だけでなく、本格的な職業体験ができる講座が目立つ。

子供に早くから職業観 教科学習と連動課題

☆ ☆ ☆
東京都杉並区立杉並第一小学校(同区)は2月、児童による手ぬぐいの販売実習を行った。5年生約60人が区内のスーパーなど2カ所で、企画から手掛けた日本手ぬぐいを販売した。

うさぎとチョウをおしらった手ぬぐいは1本550円。昨年9月から児童が話し合い、保護者ら関係者を集めた品評会でデザインを決めた。販売促進へ「工夫し」「水筒も包める」「ポケットティッシュの袋にもなる」と使い方をPRしたチラシを同封した。

商品準備や販売、お客への声かけなどの担当に分かれ、午前10時から売り出し2時間で600枚を完売した。「ものを売る仕事は身近だが、実際に体験することで難しさや楽しさがわかってくれたのでは」(佐藤広明副校長)

キャリア教育に詳しい千葉大の藤川大祐教授によると、こうした職業体験型の授業は増えている。藤川教授は「多様な大人と接触することから職業観を育てることができる。ただ、医師の体験学習であれば理数系の勉強に興味を持ってもらうなど、学校の学習と連動させることも必要だ」と指摘している。



電気メスを使った外科手術を体験する子供たち(横浜市立大付属病院)